

# やりがいを感じて

医療法人社団  
ときわ会 介護老人保健施設 小名浜ときわ苑

在宅支援相談部(社会福祉士)  
松浦 由さん(29)

松浦さんが勤務するのは小名浜金成字町田の在宅復帰を支援する介護老人保健施設「小名浜ときわ苑」。今年で勤務6年を数える。施設には介護保険施設サービス、短期入所療養介護、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、配食サービスなどがあり、在宅復帰や短期施設の利用でケアサービス、リハビリテーションなどの支援を行っている。

松浦さんは在宅支援相談員として利用者の入所相談を始めとした相談業務を行っている。利用者の入所までの手続きを行うほか、ご家族や居宅ケアマネ、病院の相談員との連携を図り、家族の背景、本人の状況などの情報共有を行う。入所後、多職種協働をはかり在宅復帰に向けた支援を行う。

業務は長期入所、短期入所、通所リハビリの三つの施設サービスの内、主に長期入所の相談業務がメイン。「私たちにあって入所されている方には早く元気になってもらい、ご自宅に帰って頂ければとても嬉しいですね。そして、また引続き通所リハビリで元気な姿が見られたらとても嬉しいです。」と松浦さん。

この業界に入ったのは交通事故で下半身が麻痺した祖父のことがとても影響しているとい



祖父の影響を受けたという松浦さん

う。「障がいがありながら仕事もこなし、自らの運転等も行っていた」と話す。祖父の運転で一緒にドライブ。目的地に着いたら松浦さんが車イスで祖父を介助したことは楽しい思い出だ。

祖父が亡くなったことをきっかけに、臨床検査技師になろうと通っていた東京の大学を

辞めた。同時に介護の勉強をしたいと仙台の福祉大学に編入。家族の反対もあり迷ったけれど、福祉の道へ進んだという。

就職時には施設の相談員をやりたいと思い、介護関係の施設が比較的多い地元のいわき市に就職先を求めた。「リハビリで元気になっていく老健(介護老人保健施設)の方が自分には合っているな」と思い現在に至っている。

この業界に長く挑んでいると思わぬことにも遭遇する。ちょうど2年前の台風では急遽、各居宅ケアマネジャーのからの相談で、被害があった平塚地区など他の施設からの利用者を受け入れた。家が流された方もいたが、緊急時の地域や居宅ケアマネジャーとの繋がりを強く体感し対応を経験したと話す。



先月末まで新型コロナウイルス蔓延防止等重点措置が発令されたいわき市。感染防止に神経をすり減らすのは職員の方々だ。そんな松浦さんの心を癒してくれるのが食品サン

ブル。収集が趣味という。現在はコロナ禍で収集できないがデスクの上にはお気に入りの飾られている。

介護老人保健施設「小名浜ときわ苑」。国道6号バイパスから見える「黄色い壁の緑色屋根」の建物で今年で26年を迎えた。施設には介護保険施設サービス、短期入所療養介護、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、配食サービスなどがある。リハビリテーションを行い、在宅復帰を支援している。入所は本館100床、ユニットケア50床で150床を有する。通所リハビリは30名。

「介護老人保険施設サービス」では、ご本人やご家族が望まれる生活を住み慣れた地域で過ごせるように、リハビリテーションや日常生活のケアなど、在宅復帰のための支援を行う。また「通所リハビリテーション」ではご自宅から日帰りで食事や入浴、リハビリテーション、機能訓練や体操などを行い、楽しい1日を過ごしてもらうなど、各サービスではそれぞれ特色のある介護支援を行っている。

医療法人社団ときわ会・介護老人保健施設  
「小名浜ときわ苑」  
〒970-9135 いわき市小名浜金成字町田18-1  
TEL.0246(58)2300 FAX.0246(58)8788  
<http://www.onahama-tokiwaken.com>

